

『ソーシャリー・エンゲイジド・アートの系譜・理論・実践』を読み解く

ーアメリカにおける系譜を中心に

2018年12月13日スタート!
前期(4回)参加者募集



"Participants, some carrying American flags, marching in the civil rights march from Selma to Montgomery, Alabama in 1965" (Photo: Peter Pettus)
Library of Congress Prints and Photographs
Reproduction No.: DivisionLC-DIG-ppmsca-08102

会 場 | アーツ千代田3331 B105 マルチスペース (東京都千代田区外神田 6-11-14)

定 員 | 30名

参加費 | 4,000円(全4回) ※第1回研究会においてお支払いください。

アート&ソサイエティ研究センターSEA研究会の企画・編集によるアンソロジー『ソーシャリー・エンゲイジド・アートの系譜・理論・実践』をテキストとする連続研究会を開催します。

本書は、SEAの系譜、理論、実践をさまざまな視点から取り上げていますが、研究会ではトム・フィンケルパールのエッセイ「社会的協同というアート〜アメリカにおけるフレームワーク」に焦点を当てます。各回、このエッセイで展開されているいくつかの重要なトピックに関連して、専門家によるレクチャーを受け、時代背景や思想をより深く理解するとともに、現在の日本の状況に照らしながら、SEAという芸術実践が起こった理由とその意味を、参加者と共にディスカッションしていく予定です。

研究会は、前期4回、後期4回の日程で開催。現在、前期の参加者を募集しています。

1

2018年12月13日[木] 18:30-20:30

用語の定義

講師：アート&ソサイエティ研究センター SEA 研究会
[工藤安代、清水裕子、秋葉美知子]

2

2019年1月11日[金] 18:30-20:30

米国 1960年代の社会運動、公民権、コミュニティ・オーガナイズング

講師：梅崎透(フェリス学院大学教授)

3

2019年1月24日[木] 18:30-20:30

米国 1960年代のムーブメントと参加民主主義

講師：五野井郁夫(高千穂大学教授)

4

2019年2月中旬予定

米国におけるコオペラティブ・アートの先駆者 〜フルクサス、カプロー

講師：未定

お申込み

ウェブサイト上に公開する申込フォームよりお申し込みください。

<https://www.art-society.com>

参加にあたって

- 事前に『ソーシャリー・エンゲイジド・アートの系譜・理論・実践』(フィルムアート社)をお読みください。
- 可能な限り、4回すべてにご参加ください。

※ いただいた個人情報は、適切に責任を持って管理いたします。

講師プロフィール

第2回講師

梅崎透（うめざき とおる）

1971年生まれ。一橋大学大学院社会学研究科博士課程単位取得退学、米国コロンビア大学大学院歴史学科博士課程修了。フェリス女学院大学文学部教授。専門は、アメリカ史・歴史学。主な論文：「三つの世界」のなかのアメリカ「六〇年代」ニューヨーク自由大学とニューレフトの「革命」／「内なる反知性主義」ー1968年コロンビア大学ストライキと知識人。共編著に『グローバル・ヒストリーとしての「1968年」：世界が揺れた転換点』（ミネルヴァ書房）

第3回講師

五野井郁夫（ごのいいくお）

1979年、東京都生まれ。東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻博士課程修了（学術博士）。高千穂大学経営学部教授。専門は民主主義論。著書に『「デモ」とは何かー変貌する直接民主主義』（NHKブックス）、共編著に『現代アートの本当の楽しみ方』（フィルムアート社）。遠藤水城による「水平線効果」(nca | nichido contemporary art) にも設営協力。

主催

特定非営利法人
アート&ソサイエティ研究センター
SEA 研究会

2013年度より「ソーシャリー・エンゲイジド・アート」をテーマとし定期研究会をはじめる。海外におけるSEAを日本に最初に紹介した展覧会《リビング・アズ・フォーム：ソーシャリー・エンゲイジド・アートという潮流》展（2014年11月）、《ソーシャリー・エンゲイジド・アート展ー社会を動かすアートの新潮流》展（2017年3月）を開催。その他、日本におけるソーシャリー・エンゲイジド・アートの動向を探る《SEA アイディア・マラソン公募展》の企画開催、パブロ・エルゲラ著『ソーシャリー・エンゲイジド・アート入門』（2015年3月）翻訳書の出版、定期イベント「SEAラウンドトーク」等を行なう。現在、社会や地域に関する調査・研究、発信活動など、アートと社会の新たな関係を構築することをめざし、活動を続けている。

前期スケジュールとテーマ・講師

2018年
12月13日〔木〕
18:30 - 20:30

1
用語の定義

フィンケルパールは「ソーシャリー・コオペラティブ・アート」と呼んでいますが、その意味は「ソーシャリー・エンゲイジド・アート（SEA）」とほぼ同義です。これらの他にも、英語圏では同様の芸術実践を表現する言葉が数多く生まれてきました（「ソーシャル・プラクティス」など）。第1回では、用語の意味と成り立ちを考察します。

講師：アート&ソサイエティ研究センターSEA研究会
〔工藤安代、清水裕子、秋葉美知子〕

2019年
1月11日〔金〕
18:30 - 20:30

2
米国 1960 年代の社会運動、公民権、
コミュニティ・オーガナイズング

米国でのSEA出現の原点を理解するために、歴史的なコンテクストを学んでいきます。この回は、1960年代の公民権運動（アフリカ系アメリカ人の差別撤廃と法の下での平等、市民としての自由と権利を求める運動）と、それに端を発する対抗団体によるコミュニティ・オーガナイズングが社会に与えた影響を考察します。

講師：梅崎透（フェリス女学院大学教授）

2019年
1月24日〔木〕
18:30 - 20:30

3
米国 1960 年代のムーブメントと参加民主主義

1960年代には、参加型民主主義に基づいて、既成の価値観や行動規範に抵抗するカウンターカルチャー運動が開花し、サンフランシスコやニューヨークで参加型政治演劇やゲリラアクションが、ムーブメントを牽引しました。世界的に「政治の季節」だった1960年代の思想と出来事を、米国と日本を対照させながら考察します。

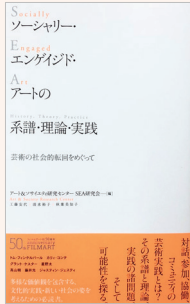
講師：五野井郁夫（高千穂大学教授）

2019年
2月中旬予定

4
米国におけるコオペラティブ・アートの先駆者
〜フルクサス、カプロー

第2回、第3回で学んだ1960年代、米国の社会的背景から「コオペラティブ・アート（協同志向のアート）」が生まれ、その後の展開に重要な役割を果たします。その創始者的存在であるフルクサスやアラン・カプローの試みを学ぶと同時に、日本の同時代の前衛と反芸術と比較検討し、美術業界、歴史主義、形式主義に一線を置いて表現活動を展開したアーティストについて実践者の立場から考察します。

講師：未定



ソーシャリー・エンゲイジド・アートの系譜・理論・実践

フィルムアート社 292 ページ 定価：2,600 円＋税

アート&ソサイエティ研究センターでは、SEAに関連する一連の活動のなかで、このような芸術実践に対する日本での関心の高まりを実感することができました。しかし、まだまだSEAについての情報は未整理で、あいまいな理解がなされている現状があります。今一度、SEAが生まれてきた背景や理論、実際のアーティストの取り組みを深く理解し、新たな議論の場をつくる必要があるのではないか、そんな思いで企画・編集したのがこのアンソロジーです。

なかでも私たちが本書の核にしたのは、第1章で紹介するトム・フィンケルパール（現在ニューヨーク市文化局長）の「社会的協同（Social Cooperation）」というアートーアメリカにおけるフレームワーク」です。彼の2015年の著書『What We Made』の序論を邦訳したもので、米国においてSEAのような芸術実践が誕生した背景を1960年代から概観し、この分野の基礎知識を提供する、非常に読み応えのあるエッセイです。本連続研究会はこのエッセイをテキストとしています。